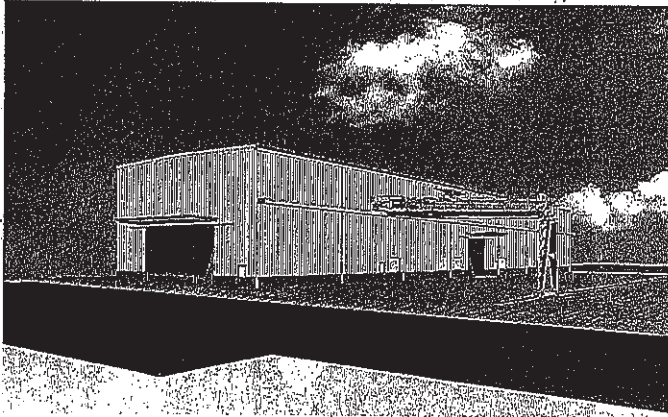


坂出郵船組が建設する新物流倉庫の完成予想図



坂出郵船組

鋼材荷役に本格参入

港湾荷役の坂出郵船組（坂出市）は坂出港林田岸壁（同市林田町）の社有地に大型クレーンを備えた鋼材用の物流倉庫を建設、鋼材の荷役事業に本格参入する。造船向けをメインに月間5千トを取り扱う計画で、鋼材荷役を事業の新たな柱に据える。倉庫は2月1日に着工し、7月からの運用開始を目指す。

林田港に物流倉庫建設

同社は1889年設立。食塩や石炭をメインに港湾荷役、海上・陸上運送などの業務を行っている。2016年5月期の売上高は6億7200万円。

物流倉庫を建設するのは公共岸壁に隣接する約2万平方メートルの社有地。かつて主力商品だった原木の保管場所として活用していたが、需要の変化で原木の取引が

経済 KAGAWA

減り、14年末には取扱量がゼロになったことで遊休地となっていた。

物流倉庫は同社の土地の一部を活用する。鉄骨平屋建て1600平方メートルの倉庫を整備するほか、同じ面積の屋外の作業スペースも確保。屋内外に3基の大型クレーンを完備する。

倉庫は月間5千トの鋼材を取り扱う能力を持つ。同社はJFEスチールと契約を結んでおり、当面はJFEスチールが造船向けに出荷する同2千〜3千トの鋼材に対応する。JFEスチ

ール以外の取引獲得も目指す。

同社はこれまで、一部で鋼材を扱っていたが、鋼材用の物流倉庫を整備することで事業を本格化。月間5千トの物流量を確保できれば、年間取扱量が金額ベースで1億円超となり、現在の主力の食塩や石炭を上回る。

綾政彦社長は「鋼材が軌道に乗れば、2期、3期工事も検討する。鋼材を新たな主力とすることで年商10億円を目指したい」としている。